詩篇16篇9-11節 「死んでも続く喜び」

1A 終わりに始まる人生 9

2A イエスの復活に基づく希望 10

3A 死後に続く喜び 11

1B 「いのちの道」

2B 「御前の喜び」

3B 「とこしえの楽しみ」

本文

私たちは詩篇の学びが、10 篇まで来ていました。今日は午後礼拝で、11-16 篇を読んでいきたくと思っています。今朝は 11 篇 9-11 節、特に 11 節に注目していきたくと思います。

1A 終わりに始まる人生 9

今日は、キリスト者にとって最大の喜びの部分の部分を学んでいきます。それは「天の喜び」です。

私たちは、新しい信者の学びの時にその初めに覚えた御言葉が、コリント第二 5 章 17 節でした。「だれでもキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」私たちは前回のエペソ人への手紙 4 章後半の学びで、新しい人を身に付けて、そして古い人を脱ぎ捨てて歩むことを学びましたが、パウロは最後に、「見よ、すべてが新しくなりました。」と言っています。これは、この世のすべての終わりに神さまのしてくださることを話しています。今の天と地が過ぎ去って、最後の審判が行われた後に、神は新しい天と新しい地を造ってくださいます。そこには、神ご自身が住んでおられ、死も、苦しみも、悲しみも、嘆きも過ぎ去りました。そして主イエスご自身が、「見よ。わたしは、すべてを新しくする。(21:5)」と言われました。ですから、私たちがイエス様を信じて新しく造られた時に、すべてが新しくされる天と地に入ることができるようにして下さった希望があるのです。

天を思いなさいということの話すと、どうしても多くの人は地上のことについて疎かになる、と思います。地上での歩みが宙に浮いているようになり、地に足がつかないような生活になっているのではないかと、言いますね。けれども、実は天を思っている人ほど、地における歩みを確かに行うことができます。それは、終わりをしっかりと見ているからです。自分は肉体の死で終わらないことを知っています。そして、自分のしていることは死んだ後に神によって評価を受けることを知っています。「私たちはみな、キリストのさばきの座に現われて、善であれ、悪であれ、各自その肉体にあってした行為に応じて報いを受けることになるのです。(2コリント 5:10)」私たちは普段、自分のしていることに責任をもって動こうと努力しますが、キリスト者は、死んだ後に報いを与えられる主なる神に責任をもって動こうとします。天を喜ぶことによって、今、地上で起こっていることに責

任が持てるのです。今の生活がたとえ荒波のように激しくても、ぶれることなく、最も大切なこと、神に御心また正しいことは何かを見分けることができます。そして、それを行なうことのできる勇気と力を与えてくれます。

ダビデは今、自分の命が肉体の死によって妨げられることのない喜びを、9 節で次のように言い表しています。「それゆえ、私の心は喜び、私のたましいは楽しんでいる。私の身もまた安らかに住まおう。」喜び、楽しみ、そして安らかにしています。

2A イエスの復活に基づく希望 10

なぜなら、死んでも神がその体を甦らせる希望を持っているからです。「10 まことに、あなたは、私のたましいをよみに捨ておかず、あなたの聖徒に墓の穴をお見せにはなりません。」死んで墓の中にずっと留まらせることはない、とあります。ダビデがこの言葉を語りましたが、実は聖霊によって、自分自身の肉体以上にキリストの復活について預言していました。その約千年後、ダビデの墓はまだエルサレムにありました。けれども、五旬節の祭りに弟子たちに聖霊が降りました。異言で、外国の言葉で弟子たちが神を賛美するので、祭りに集っていたユダヤ人たちは驚き呆れました。そこでペテロが立ち上がって、このことは終わりの日に起こる、聖霊が降り注がれる出来事なのだの説明しました。そして、イエス・キリストを宣べ始めるのです。彼は詩篇 16 篇 8-11 節まで引用しました。そして、こう説明しています。

「使徒 2:29-32 兄弟たち。先祖ダビデについては、私はあなたがたに、確信をもって言うことができます。彼は死んで葬られ、その墓は今日まで私たちのところにあります。彼は預言者でしたから、神が彼の子孫のひとりをして彼の王位に着かせると誓って言われたことを知っていたのです。それで後のことを予見して、キリストの復活について、『彼はハデスに捨てて置かれず、その肉体は朽ち果てない。』と語ったのです。神はこのイエスをよみがえらせました。私たちはみな、そのことの証人です。」ですから、イエスが十字架につけられて死んだのに、三日目によみがえられたことを、ここ詩篇 16 篇 10 節は話しているのです。そしてキリストによって新しく造られた者は、キリストが甦られたように、その肉体を甦らせていただくのだということです。ですから 10 節は、キリストご自身がよみがえり、そして私たち自身もよみがえることを教えています。

3A 死後に続く喜び 11

1B 「いのちの道」

ダビデは、11 節でこう言います。「あなたは私に、いのちの道を知らせてくださいます。」いのちの道です。イエス様が十字架につけられる前に、弟子たちに前もって、ご自身がいなくなることを知らせました。けれども、父なる神のところにはたくさんの住まいがあって、あなたがたのためにも備えておきます。そして、備えたらまた戻ってくる、と約束されました。そしてこう言われます。「わたしの行く道はあなたがたも知っています。」いつも、分からないことがあると正直に質問するトマスがこう言います。「主よ。どこへいらっしゃるのか、私たちにはわかりません。どうして、その道が私たち

にわかりましょう。」イエスは答えられました。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません。」(ヨハネ 14:4-6) イエスご自身がいのちの道です。

ラザロの死について、姉妹のマルタがイエス様に詰りました。「もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。」けれども、イエス様は答えられました。「あなたの兄弟はよみがえります。」マルタは、終わりの日に全ての人をよみがえらせることを信じていました、けれどもイエスは言われるのです。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことはありません。」(ヨハネ 11:21-26)そして死んでから四日経っているラザロを、イエスは甦らせました。これが、いのちの道です。

「いのちの道」を選んだ者は死に対して正しく直面することができます。パウロは言いました。「私にとっては、生きることはキリスト、死ぬこともまた益です。(ピリピ 1:21)」死ぬことが益になるということです。なぜなら、肉体の死によって、天におられる主の御前に出られるからです。聖書の多くの箇所、キリストを信じて死んだ者が「眠った者」と書かれています。ラザロの死について、イエス様は、彼は眠っているから起こしに行くと言われた時に、弟子の一人がただ眠っているだけなら、また起きるでしょうと質問したところ、イエス様ははっきりと「ラザロは死んだのです。」と言われました。眠っているのはその状態が一時的だということです。死がそれで終わるのではない、ということです。死んでも甦る希望があるから、眠っているのだということです。

そして、キリスト者にとってこの肉体が減びるのは、衣を変えるだけであることを知っています。「終わりの日のラツパとともに、たちまち、一瞬のうちにです。ラツパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。朽ちるものは、必ず朽ちないものを着なければならず、死ぬものは、必ず不死を着なければならないからです。しかし、朽ちるものが朽ちないものを着、死ぬものが不死を着るとき、「死は勝利にのまれた。」としるされている、みことばが実現します。(1コリント 15:52-54)」そしてパウロは他の箇所で、今の肉体は地上の天幕、テントであり、神から与えられる体は神の建物であると言っています。

去年 10 月 3 日に、カルバリーチャペルの牧者チャック・スミスが亡くなりました。けれども、彼は 1990 年代いや 80 年代の頃から既に自分が死ぬことについて、ユーモアを込めて話していました。「いつか、あなたは新聞でチャック・スミスが死んだという記事を読むことでしょう。信じないでください！ 正確には、「チャック・スミスは引越した。」のです。古びた、すり切れた天幕から、新しい栄光に輝く、イエス様のような体に移ったのです。もはや、呻きもなく、痛みもなく、苦しみもありません。永遠に、主と全き交わりを持つことだけです。」

死んだのではなく、移った、引っ越しただけなのです。私は、彼が死んで子供のようにむせび泣

きました。こんなに彼を慕っているものとは、自分自身知りませんでした。理性で抑えていたのでしょう、けれども霊では父のように慕っていたのです。けれども、その時に天に窓が開いたような、イエスが隣におられる感覚が与えられました。チャックの姿は消え、「わたしが主である。あなたは、ここに向かって走るのだ。」と言われました。天に引き上げられ、主イエスとお会いする時まで、残された日々を無駄にすることなく使っていきなさいという促しです。

2B 「御前の喜び」

そして 11 節にはこう書いてあります。「あなたの御前には喜びが満ち」ます。使徒ペテロは、イエス・キリストを神が死者の中から甦らせたことによって、私たちが新しく生まれさせ、生ける望みを与えられたと言っています。そして、天には「朽ちることも汚れることも、消えていくこともない資産を受け継ぐようにしてくださいました。これはあなたがたのために、天にたくわえられているのです。(1ペテロ 1:4)」と言っています。そしてこう言いました。「あなたがたはイエス・キリストを見たことはいないけれども愛しており、いま見てはいないけれども信じており、ことばに尽くすことのできない、栄えに満ちた喜びにおどっています。(1:8)」栄えに満ちた喜びに踊っています。

将来、主が戻られたら、目と目を合わせてしっかりと見ることができるのです！「今、私たちは鏡にぼんやり映るものを見ていますが、その時には顔と顔を合わせて見ることになります。(1コリント 13:1)」そして、私たちは栄光の主の姿を見て、大いに喜ぶのです。「ローマ 5:2 またキリストによって、いま私たちの立っているこの恵みに信仰によって導き入れられた私たちは、神の栄光を望んで大いに喜んでいます。」

喜びに満たされることが、神が私たちに願われていることです。「ヨハネ 15:10-11 もし、あなたがたがわたしの戒めを守るなら、あなたがたはわたしの愛にとどまるのです。それは、わたしがわたしの父の戒めを守って、わたしの父の愛の中にとどまっているのと同じです。わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたの喜びが満たされるためです。」イエス様の御言葉によって、私たちがこの方に留まり、その愛の中に留まっていることによって、私たちは喜びが満たされます。

そして私たちは祈りが聞かれることによって、喜びが満たされます。「ヨハネ 16:24 あなたがたは今まで、何もわたしの名によって求めたことはありません。求めなさい。そうすれば受けるのです。それはあなたがたの喜びが満ち満ちたものとなるためです。」祈りをどんどんしていきましょう。教会のため、互いにために祈ってください。神は祈りに答えられ、それで私たちが喜びで満たしたいと願われています。

さらに、神と御子との交わり、また互いの交わりによって喜びに満たされます。「1ヨハネ 1:3-4 私たちの見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝えるのは、あなたがたも私たちと交わりを持つようになるためです。私たちの交わりとは、御父および御子イエス・キリストとの交わりです。私たち

がこれらのことを書き送るのは、私たちの喜びが全きものとなるためです。」イエス様と交わって、そして互いに交わって私たちは互いに交わります。その中に全き喜びが与えられます。

そして、実はこの喜びは、私たちだけのものではなく、主ご自身が私たちを天に引き取る時に喜んでおられるのです。「マタイの福音書 25:21 よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。」この地上で主に対して行なったことを、主はこよなく喜んでおられます。それで、私たちの行ないではなく、もっぱらこの方の気前の良さ、大らかさによって、私たちにご自身の国の分け前を与えてくださるのです。私たちが喜ぶだけでなく、主ご自身が喜んでおられるのです！

3B 「とこしえの楽しみ」

そして、「あなたの右には、楽しみがとこしえにあります。」とあります。とこしえの楽しみです。それは、永遠の命が私たちに与えられているからです。「御子を持つ者はいのちを持っており、神の御子を持たない者はいのちを持っていません。私が神の御子の名を信じているあなたがたに対してこれらのことを書いたのは、あなたがたが永遠のいのちを持っていることを、あなたがたによくわからせるためです。(1ヨハネ 5:12-13)」

天使ガブリエルが、マリヤに対して、預言者たちの言葉を引用してこう告げます。「ご覧なさい。あなたはみごもって、男の子を産みます。名をイエスとつけなさい。その子はすぐれた者となり、いと高き方の子と呼ばれます。また、神である主は彼にその父ダビデの王位をお与えになります。彼はとこしえにヤコブの家を治め、その国は終わることがありません。(ルカ 1:31-33)」とこしえにイエスが王となり、その国は終わることがありません。そして、新しい天と新しい地について、預言者イザヤがこう預言しました。「65:17-19 見よ。まことにわたしは新しい天と新しい地を創造する。先の事は思い出されず、心に上ることもない。だから、わたしの創造するものを、いついつまでも楽しみ喜べ。見よ。わたしはエルサレムを創造して喜びとし、その民を楽しみとする。わたしはエルサレムを喜び、わたしの民を楽しむ。そこにはもう、泣き声も叫び声も聞かれぬ。」いついつまでも楽しむのです。先のこと、つまり罪のもたらす死、苦しみ、悲しみは思い出されません。

使徒パウロは、罪の中に死んでいた私たちを、神がキリストと共によみがえらせてくださって、今はキリストと共に天の所に座らせてくださった、と言っています。そして、「エペソ 2:7 それは、あとに来る世々において、このすぐれて豊かな御恵みを、キリスト・イエスにおいて私たちに賜わる慈愛によって明らかに示されるためでした。」すぐれて豊かな恵みを、あとに来る世々において神は示されるのです。

最後に、「あなたの右には」という言葉を見てみたいと思います。右は権威と力を、聖書では表しています。けれども、もっと具体的にはそれは自分を支え、自分を守り、自分を受け入れてくれる力です。結婚式のことを考えください。花嫁の右にるのは父親です。そしてその父親が今度は

花婿にその右に立ちます。つまり、これから新しい男、夫に守られて、覆われていきなのだ、ということですが。

マタイによる福音書 25 章には、主イエスが地上に戻って来られることをイエスご自身が話されます。すると、羊飼いが羊と山羊を選り分けるように、国々を選り分けると言われます。羊は右に、山羊は左に置きます。そして王が羊である右にいる者たちにいうのです。「さあ、わたしの父に祝福された人たち。世の初めから、あなたがたのために備えられた御国を継ぎなさい。(マタイ 25:34)」神の国の中で、その右にいる者たちはとこしえの楽しみを得ることができるのです。では左はどうでしょうか？「のろわれた者ども。わたしから離れて、悪魔とその使いたちのために用意された永遠の火にはいれ。(25:41)」左にいる者たちは、永遠の楽しみどころか、永遠の刑罰と苦しみがあります。

ですから、ここにいる私たちは皆、二つの道に別れるのです。右にいるのか、それとも左にいるのか？であります。今、ここで命の道を選び取ったかどうかであります。わたしが道であり、真理であり、命であると言われたイエスの言葉を受け入れたかであります。この方のために生きることを決めているかどうか、であります。そこには爆発的な喜びがあります。死ぬことは、主のご臨在の中にはいる道なのだと思っています。そして、この体が栄光の体に変えられる時だということを知っています。そしてイエスご自身に真正面からお会いすることができることを知っています。

しかし左にいる人々は、自分の道を選びます。自分のやりたいように生きていこう、自分の人生の主導権は自分がしっかり握っておこう。罪を犯したかもしれないが、自分の生き方を変えることはできない。私はなかなか良い人間だし・・・、と悔い改めることを拒む道です。神が地獄に送り込まれると考えてはいけません。主ご自身が言われました、それは悪魔とその使いたちのために用意されていると言われます。自分自身が拒んで、その主体的な選択によって地獄に行くのです。主は、すべての人が滅びず、悔い改めて救われることを願っておられます。あなたのために、ご自身の命を捨て、地獄の苦しみを十字架の上で味わったのです。そこまでして愛してくださった人が、この世にいますか？しかし、あなたを造られた神はそれを行ってくださったのです。その証拠に、イエスを死者の中から甦らせたのです。